

パパ・ママ子育て知恵袋

第23回は「子供は嘘をつく」

人はたいてい、自分の都合のよいように話をします。
事実の一つしかありませんが、人はその事実を誰かに伝えるとき、自分の都合のよいように話をします。当然です。

さて、子供は嘘をつきます。

昔のドラマのセリフに「親が子供を信じてやらないで、誰が信じてやるんだ」というのがありました。中学生の私は大いに納得しました。

しかし、自分が親になると「信じてやりたいが、そうも言ってられない」という場面に何度か遭遇しました。

中3の教え子が担任の私に嘘をつきました。

私は事実をつかんでいたのに、その彼が嘘をついているのはわかってました。嘘がばれると彼は自分の悪行を友達のせいにし、親のせいにし、とうとう「社会が悪い」と言い放ちました。

張り飛ばしてやろうと思いましたが、急に、その子が可哀想になりました。

「いいよ。言い訳はいい。その言い訳は醜い。聞かなかったことにする。でな、お前は私に嘘をついた。これは事実。一所懸命に嘘をついた。良いか悪いかは別にして、お前は私に一所懸命だった。それはそれは一所懸命だった。悲しいくらい一所懸命だった」とゆっくり話しました。

すると彼は大量の涙をこぼして「センセー、嘘ついてごめんなさい」と謝りました。幼児のように泣き出しました。

長じて今、彼はこう言います。

「あん時のことは忘れられないです。今、自分の子供が嘘をつくとき、親だから『こりゃ、あやしいな』ってわかります。鵜呑みにはできません。でも、とにかく聞いてやろうと思います。あん時、センセーは分かってて、でもくだらねえ言い訳まで最後まで聞いてくれた。人が悪いですよ（笑）。でも最後まで聞いてくれたから、話しながら、オレはつくづくクズなんだなって分かったんです。」

子供は嘘をつきますね。パパママ、グランパグランマの気をひきたくて嘘をつくことだってあります。

さて、ついていい嘘といけない嘘があると気づくのは、ずいぶん大人になってからでした。